

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793100033		
法人名	富士工業株式会社		
事業所名	グループホームほほえみ 1階		
所在地	福島県田村郡三春町小浜海道38-4		
自己評価作成日	平成27年8月20日	評価結果市町村受理日	平成27年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/07/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年11月27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の一人ひとりの生活を尊重し、その人らしい生活の支援に努めています。恵まれた自然と生活上の利便性も良好で、穏やかに、笑顔で生活されています。広々とした明るく家庭的な雰囲気の建物の造りとなっており、スタッフの生き生きした関わり、温かく優しい介護サービスが展開されているグループホームです。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 自然の彩りが感じられる環境と利用者の作品が飾られた清潔な共有空間の中で利用者がゆったりと落ち着いて生活をしている。  
 2. 地域自治会に加入し、地域の行事に参加したり、事業所行事に地域住民を招き、ボランティアとの交流がある。行政は事業所運営に協力的である。  
 3. 運営推進会議に町の担当課長、地域包括センター職員、地域住民代表、家族、利用者代表などが委員になり、利用者、職員状況、行事などの運営状況、事故(ヒヤリハット)などを報告し、委員の率直な意見をいただき、サービスの向上に努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、毎朝の申し送りの最後に、ホームの理念を唱和してその思いを心にとめて職務、実践につなげている。	毎朝の申し送り時に全職員で理念を唱和するとともに、管理者は各種会議で理念を具体的な実践につなげるよう指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材の買い出し、配達を馴染の八百屋さんや肉屋、魚店にFAXにて依頼し、家電の修理は町内の電気屋さんに依頼するなど日頃から交流している。	地域自治会に加入し、地域のクリーン運動、消防訓練に参加したり、地域住民も事業所の芋煮会への参加を呼びかけ、歌や踊りのボランティアが訪問するなど地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の会合に参加したり、ホームの行事に地域の方を招いて日々の暮らしの関わりを見せたり、聞かせたりして地域の人たちに支援の方法や認知症の理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議において出席者は、ホームの運営事業の取り組みや問題点について率直に意見を述べている。特にヒヤリハットの報告について、事故防止の観点から厳しい意見や助言を以て指摘されており職員に周知サービス向上に活かしている。	行政の担当者、地域包括センター職員、地域の代表者、家族、利用者代表が委員となり定期的開催している。利用者、職員状況、行事、事故、ヒヤリハットなどを報告し、率直な委員の意見をいただき、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の連絡協議会の会合に出席したり、月初めの報告、申請書の提出時に意見の交換や指導を頂くなど日頃からサービス向上に努めている。	町の連絡協議会で事業所状況を報告したり、担当課長が運営推進会議の委員の為、事業所の実情や運営課題を把握し、ケアサービスの質の向上に行政も積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルやスタッフ会議を通して職員に周知し、日頃から具体的な身体拘束の行為について話し合い管理者、スタッフ全員が取り組んでいる。日中、玄関、2階の入り口の施錠はしていない。	身体拘束廃止マニュアルがあり、職員の勉強会を実施しているが、毎月転倒事故(ヒヤリハットを含む)などがみられることから、職員間で事故防止のための研修を行い、事故防止の徹底に努めている。又、玄関の施錠も含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から小さな傷やあざについて有無を確認し発見時は十分に検証し虐待防止に努めている。職員のストレス等、職場環境についても、意識を高く以て防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度をすでに利用している人もおり、関わりを通して学んでいる。また、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時にその都度、利用者や家族の話を十分に聴き説明を行い不安や疑問を解消し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所のカウンター付近に意見箱を設置、家族の面会時に自由に投書できるようにしている。利用者には、日頃から話し易い環境づくりに努め、会話や様子に寄り添ってその思いや要望を運営に反映させている。	日頃のケアや家族来訪時などに利用者、家族の意見要望を把握し、運営に反映させているが、外部評価時の家族アンケートが半数の回答にとどまっている。	家族などが意見・要望を気軽に表せるよう、より一層家族との関係を検討し環境づくりに努めて欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、ユニット会議の中で、またいつでも話し易い関係と時間をつくるように心掛け運営に反映させている。	申し送り時や各種会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。しかし、今年度は職員の資質向上を図るための研修会への参加実績がなく、内部研修会も実施していない。	職員の資質向上の機会がより充実できるように、研修計画を立て参加を促したり、職員の有給休暇取得状況の把握など福利厚生についても検討して欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績や勤務状況を把握し給与設定し、残業手当休日出勤等についても評価、算定しており、職場環境、条件についても整備、意欲的に働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験や介護の実際における知識と技量を把握して見合った研修の機会を与え日々の業務を通してきめ細かい指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の行事や研修に参加させるなど、交流の機会を得てサービス向上に反映させている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の面談の中で、不安や要望について十分に聴き取り不安や疑問の解消しサービス開始後も確認しながら信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも気軽に相談できるように面談時は本人の要望のみならず、家族の要望、不安や困惑していることを傾聴し安心して利用できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中で本人家族の主訴を理解し、改善に向けて専門性とチームワークを以て取り組む姿勢を説明し必要なサービスを導入することに同意を得た上で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年の暮らしの中で習得した技術や好きな事を日常生活の中で、発揮手伝ってもらうなど、それぞれに役割意識を持ちながら生活できるように関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会外出等の受け入れを可能とし、電話等により、利用者の様子や変化を報告したり、受診を家族に依頼するなど関わる機会をつくり関係の構築に努めている。。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族をはじめ友人や知人の面会等いつでも自由に入出りできるようにしている。なじみの八百屋、お菓子屋に外出して買い物するなど関係が途切れないように支援している。	馴染みの理髪、美容院を利用したり、訪問理美容を受けている。外食、買い物などに出かけたり、知人の訪問や家族との墓参り、ドライブなど希望に添い、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や関わりを把握し、共同生活を意識しながら利用者同士が仲良くあいさつしたり、お風呂の順番をゆずり合うなど関係を大切にしながら生活している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族の不安や本人の様子について伺うことがある。いつでも関わり相談支援できる窓口として、電話や手紙をやり取りしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の身近な会話の中で個々の小さな希望や要望を聴いたり様子を見て食事や入浴、家族に繋ぐ等、気兼ねなく自由に過ごせるように努めている。	意見箱を設置したり、日頃の生活やこれまでの生活の仕方を把握し、家族からの情報を得るなどし、行動を観察しながら本人の意向に添うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	知人、友人等馴染みの人たちから情報収集したり、居宅支援事業所と情報交換するなど本人の意向や経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で個々の様子や会話を通して状態観察に努めている。記録や申し送りで共有し、安心して生活できる環境づくりに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や現状に沿って随時カンファレンスを行い、必要としているケアについて専門性を優先し医療と連携して望ましい介護計画を作成に努めている。	担当制をとっており、利用者や家族の意向や現状課題等を把握し、担当者で話し合い、介護計画を作成し、3ヶ月ごとに見直すとともに、状況変化時に速やかに介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の記録を行い、特変や身体の変化について申し送りや介護員ノートを通して随時情報を共有し介護計画に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況や病院により、入院中の洗濯物や退院時の送迎等、利用者や家族のニーズに合わせてサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを活用、踊りや演芸を依頼し協力を得ている。町の電気屋さんにカラオケのセットを無償でレンタルし利用者に楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけを優先し、町内の往診可能な医療機関や歯科の先生に定期的に往診を依頼し必要があれば大きな病院に紹介状を書いていただくなど適切な医療を受けられる様に支援している。	かかりつけ医の受診は、家族と職員で連携しながら状況に応じ行っている。往診は定期的を受け、訪問看護と連携し、夜間の緊急対応もスムーズである。受診の結果については、家族に連絡し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフと医療連携看護師のノートを通して情報を共有したり電話で伝える等利用者が適切な看護、受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際して家族と一緒に病院での治療方針について説明を受け安心して治療ができるように、状態や退院後の相談や情報交換をしている。日頃から、病院からの空き情報や入所の問い合わせに丁寧に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にあらかじめ確認したその時に重度化の指針、マニュアルに沿って、医療と連携しホームで出来る事、家族のお役割、地域の親しい人との面会等の協力を頂きながら対応している。	入居時に重度化や終末期について指針、マニュアルより説明し同意を得ている。看取りについては、チームで看取りに取り組んでおり、現在まで、5件の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の申し送りの中で、利用者の状態に合わせ、リスク管理と緊急時の対応について話をしたり一緒に実践する中で、初期対応についても随時、機会を捉えて身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の計画を隔月に行う予定であるが、実践できていない。職員の日頃の防災意識や非常時の避難について身につけるように、また地域の協力が得られるように今後努力してゆきたい。	火災・地震災害時の対応マニュアルが事業所の壁面に張られており、緊急時の連絡対応が出来るよう職員全員が把握している。今年度中に2度の消防訓練を消防署立会の下、実施する計画で、防災・避難訓練も防災計画に沿って行っている。夜間における訓練が少ないので今後の課題となっている。非常時用備蓄品は水、缶詰等を用意されている。	各種の災害を想定した昼夜を問わない避難訓練回数を増やすことと、地域住民の協力体制を構築するよう検討し、災害時における利用者の安全確保に努めて欲しい。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の考え方や価値観、これまで歩んできた人生に敬意を表し尊重しながら関わる努力をしている。日々のあいさつや日常の会話も失礼のないように丁寧語や敬語を使うようにしている。	利用者の尊厳を守り、プライバシーを損なわないように、朝礼で周知を図り、ケアに反映させている。個別記録等の個人情報の管理は適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも気軽に話し相談できる関係づくりに努めている。希望や意見を傾聴しておやつや食事、入浴についても希望時に入れるように声掛け言葉かけし配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や天気次第で買い物や外食、夕方や寝る前の入浴等可能な限り対応するようにしている。早起きの方と朝食ギリギリまで寝ている人もおり希望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性は洋服に合わせて化粧をしたりフカーフをまいたりしておしゃれを楽しんでいる。男性もユニクロのヒートテックやパーカーを着用するなどスタッフと一緒に買い物に行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	料理の下ごしらえで野菜の皮むきや切込みを手伝ってもらい一緒にけんちん団子やポテトサラダなどをつくり食べている。お代わりするなど和やかに会話も弾み楽しく食事している。	食事は、職員と会話しながら楽しく進め、利用者に野菜の皮むき、食前、食後のテーブル拭き等を手伝ってもらっている。また、地域の方から野菜の差し入れがあり、食材として料理に活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の身体状況や生活の仕方、嗜好や少食と大食等体質や習慣に応じて提供している。夜間に毎日夜食(おにぎり)を食べて寝る利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや入れ歯の洗浄等口腔ケアを行っている。居室の洗面所にて義歯を洗浄したり自分でブラッシングしてすぎは介助するなど、能力に応じて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿便意の有無や頻尿の方など一人ひとりの排泄パターンを把握し、定時に声かけ誘導するなど身体状態に応じて排泄の支援を行っている。	トイレでの排泄を目標に排泄チェック表を確認してトイレ誘導を行い、自立支援に努めている。職員が定時に声掛け、目配りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	「玉ねぎ氷」や「ヨーグルト」「冷たい牛乳」等食事面と運動、水分量を見ながら個別に対応し薬に頼らない便秘の解消に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前入浴を週に2回を基本としているが、毎日入浴や夕方入浴、季節の入浴でヨモギや菖蒲湯ゆず湯等を利用者の希望に合わせて提供している。	楽しく安全に入浴をして貰えるように職員二人体制で支援をしている。入浴チェック表により、主に週二回、午前中に入浴されているが、体調や利用者の意向に応じたバイタルチェックを行い、適切な入浴支援を行っている。季節を感じてもらうため、ヨモギ、菖蒲湯などを取り入れ利用者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な照明や寝る前のホットミルク等のサービスやいつでも自由に寝て、起きることができるような声かけをしたり、時には添い寝するなど安心して気持ち良く入眠できる環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋や薬の手帳により、効果効能も理解した上で効き具合や副作用でどうなのか、適切な量の加減を観察し日誌や申し送りノートに記載して周知、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個々の能力に合わせて、洗濯物をたたんだり、食事の支度の下ごしらえを日課のようにお手伝いいただいている。畑の草むしりや野菜の収穫を、一緒に行い調理するなど楽しく過ごしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅に外泊したり一緒に墓参りに出かけている。外食や買い物などの希望時は、スタッフや家族に協力依頼して戸外にもどんどん行けるように支援している。	買い物、外食、友人、知人に会いに行きたい等の一人ひとりの希望に職員と家族の協力の下、支援している。重度化により遠距離旅行は困難であるが、近所の花見、紅葉見学等は積極的に支援している。なお、訪問理容も毎月来てもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	無駄遣いや贅沢はしないが小額を楽しみに欲しいものや食べたいものを一緒に買いに行ったり、ヤクルトや自動販売機で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	依然入所していた施設の友だちやスタッフ、兄弟の手紙を読んだり返事を書くなど時には電話したりしている。いつでも希望があれば、連絡するように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾をしたり、明るく家庭的な雰囲気にして安心してゆっくり過ごせるように心地よく落ち着いた雰囲気作りに努めている。	居間に季節の鉢植えの花が飾られており、落ち着いてゆっくり出来る雰囲気作りに配慮し、季節感のある飾り付けを利用者と一緒に取り組んでいる。温度、湿度、明るさ等は、利用者に声をかけながら調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広く明るいリビングには、ソファを配置して自由にゆっくり過ごしたり、のんびりくつろいで寝転んだり自分の家のようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者が自宅で慣れ親しんだ家具やテレビ等の家電を持参して思うように配置して居心地良く落ち着いて暮らせるように配慮している。	利用者一人ひとりの居室には、自宅で使い慣れ親しんだ馴染みの家具、テレビ、仏壇、思い出の写真等が持ち込まれており、落ち着いた、気持ちの安らぐ生活の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階建ての箱型の建物だがバリアフリーとなっており、仕切りも少ないため分かり易く単純な造りとなっている。建物内部も引き戸や手すりが付いており安全で一人でも生活出来るように工夫されている。		